随筆 第一二三回

オリンピックイヤーの幕開け

市長 明智忠直

東京２０２０オリンピック・パラリンピックの開催の年になりました。日本国中が夢や期待、感動を感じる世界最大のイベントだと思います。

前回の東京大会から56年ぶりに東京での開催となり、私たち世代は幸運にも２度目のオリンピックを体験することになります。政治や経済、貧困、格差などの社会問題とは縁遠いスポーツの世界で、オリンピック出場という夢に、全精力を傾けて頑張っている若者の姿。そこに世界中の人々が共感し、応援していく中で、絆が生まれるのだろうと思います。

オリンピックの選手選考も佳境に入っているところであります。これまでテレビを通し、マラソンや卓球、バドミントン、レスリングなどの選考会で、敗れた選手たちの涙を目の当たりにしました。この涙の裏側は、私たちに計り知ることはできませんが、どれほど血と汗と涙を流し、どれほど強い精神力で頑張って来たのかを想像すると、選手全員を出場させたい気持ちでいっぱいであります。

近代オリンピックの父、クーベルタン男爵は「参加することに意義がある」と言いました。今改めて、その言葉の重みを感じることが必要ではないでしょうか。多くの選手や関係者も、メダル獲得がオリンピックの意義だと思わないでほしい。私たちは自分の限界に挑戦する選手たちの姿に、万感の思いを込めて応援をするわけであります。これから陸上や水泳、体操、柔道など続々と代表が決定されます。トップを目指すとともに、これまで戦ってきた方への感謝の気持ちを持ちながら、世界の大舞台で活躍してくれることを願います。

昨年は今年の漢字に「令」が選ばれました。令には「うるわしい」「寄り添う」「美しい」などの意味があるようです。オリンピックが開催される本年も、ぜひそんな一年になりますように祈ります。

市図書館だより

開館時間／火～金曜日…午前９時～午後６時
土・日曜日…午前９時～午後５時
今月の休館日／１日(水・祝)～３日(金)、14日(火)、16日(木)、毎週月曜日
問市図書館(☎62-2560)　http://www.library-asahi-chiba.jp/

今月のおすすめ

「サイレント・ブルー」

樋口明雄 著
(光文社)

八ケ岳南麓の高原で、突然地下水が枯渇し、住民の生活から水が消えた。事態は企業や地域を巻き込んだ社会問題へと発展していく。

「自由は死せず」

門井慶喜 著
(双葉社)

土佐藩の悪童とやゆされた乾(後の板垣)は、黒船来航により政治に目覚める。個々の欲を満たす自由民権を政府の礎にと奔走する。

新着図書

- 不良という矜持(きょうじ)　(下重暁子(しもじゅう))
- ケーキの切れない非行少年たち　(宮口幸治)
- 真夜中の陽だまり　(三宅玲子)
- 親の健康を守る実家の片づけ方　(永井美穂)
- お江戸ののれん　(鈴木進吾)
- 京都で町家旅館はじめました　(山田静)
- 高倉健、その愛。　(小田貴月(たか))
- 潮待ちの宿　(伊東潤)
- 約束された移動　(小川洋子)
- まち　(小野寺史宜)
- スワン　(呉勝浩)
- サンズイ　(笹本稜平)
- 夜はおしまい　(島本理生)
- 神を喰らう者たち　(新堂冬樹)
- 人面瘡探偵(じんめんそう)　(中山七里)
- 青い秋　(中森明夫)
- 星と龍　(葉室麟(はむろりん))
- 風神雷神　(原田マハ)
- カエルの小指　(道尾秀介)
- みちづれの猫　(唯川恵(ゆいかわけい))
- 三人寄れば無礼講　(清水ミチコ)
- 弾丸メシ　(堂場瞬一)
- 赤い髪の女　(オルハン・パムク)
- カッティング・エッジ　(ジェフリー・ディーヴァー)

おはなしの時間
幼児向きの絵本の読み聞かせ

日時／１月９日(木)、23日(木)
午後４時30分～５時
場所／市民会館２階和室